

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 20 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24330050

研究課題名(和文) グローバル化時代のシティズンシップ 日本における「民」の再定義に向けて

研究課題名(英文) A study of 'peoplehood' in the age of globalization

研究代表者

遠藤 乾 (ENDO, Ken)

北海道大学・大学院公共政策学連携研究部・教授

研究者番号：00281775

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、チームの中で現場検証、制度的検討、思想的考察をつなぎ合わせながら、グローバル化時代の「民」イメージを柔らかく再検討する試みであった。

業績は順調に出た。遠藤乾と柄谷利恵子による『グローバル・コモンズ』に加えて、明石純一『「グローバル人材」をめぐる政策と現実』など書籍も刊行され、英語による発表なども数多く、眞壁仁による論考「日本における「民」の政治思想史」をメンバー全体で共有できた。また、代表者自身が進めた共訳書『軽いシティズンシップ 市民、外国人、リベラリズムのゆくえ』(クリスチャン・ヨブケ著)とそれに伴う解説を通じて、学界に対してモ一定の問題提起できた。

研究成果の概要(英文)：The project is intended to reconsider the malleable images of 'peoplehood' in the age of globalization. In so doing, we attempted to combine the various approaches: visiting the sites where the care workers are trained & where they actually work, analysing the institutional structures of the host countries, and exploring political vocabularies in the Japanese history.

We have published a number of work, including Global Commons by Endo & Karatani, and The Policies & Realities over the Global Human Resources by Akashi. In addition, the team members gave talks both for domestic & international audiences. Furthermore, we share the presentation by Makabe on the conceptions of 'peoplehood' in the Japanese political thought. Finally, Endo et al. translated the seminal work by C. Joppke (Citizenship & Immigration) into Japanese.

研究分野：国際政治

キーワード：グローバル化 市民 国民 庶民 移民 シティズンシップ 外国人 市民権

1. 研究開始当初の背景

近年の日本政治において、在日の外国人参政権、民族系高校の無償化、政治献金等、多くの争点が浮上した。また、経済連携協定を通じて看護師等の国際人口移動が実際に生じ、外国人実習生などが争点となっている。今も昔も「移民」は日本の一部なのだが、もちろん彼らはそうは呼ばれない。日本における「民」のイメージは、「国民」「庶民」に集中し、「市民」はバタ臭いままでは定着し切らない。

本研究は、そうした現況を背景に、「民」イメージを柔らかく再検討する試みである。

2. 研究の目的

本研究は、グローバル化時代における「民」のあり方を再検討することを目的とした。具体的には、国民、市民、庶民、移民等のあり方をシティズンシップ概念と実践との関連で構成し直し、米欧東アジア諸国の国際的な動向に照らして、日本の土壌に再定位することを目指した。これは、申請者がこれまで取り組んできたグローバル・ガバナンスや EU の研究をさらに発展させ、チームの中で経験的知見と思想的考察をつなぎ合わせながら、日本における「民」のあり方の再考へ接続する(国際)政治学的な試みである。

3. 研究の方法

(1) 現場検証： グローバル化の行きつく政策現場をきちんと検証した。東南アジアの看護師・介護士送り出し国、外国人研修生の働く現場など経験的に調査した。

(2) 制度的検討： 入国管理から地方自治体の受入態勢など、法規定のハード面から慣行として行うソフトな対応面までを視野に収め、我が国のシティズンシップ体制の特徴の国際比較を試みた。

(3) 理念的考察： 1と2の政治学的含意の検討。特にイデオロギーとしても制度としても強固な「国民」を否定することなく、包摂的な装置としての「市民」を思想的・制度的に手厚くする方途を考察した。

4. 研究成果

業績は順調に出た。遠藤と柄谷による『グローバル・コモンズ』(日本の安全保障シリーズ第8巻、岩波書店、2015年)に加えて、明石純一『「グローバル人材」をめぐる政策と現実』(明石書店、2015年、五十嵐泰正との共編著)など書籍も刊行され、英語による発表なども、辻康夫による韓国政治学会における Formulating a theory of multiculturalism in

Japanese context や、安里和晃による 6th ADBI-OECD-ILO Roundtable on Labour Migration in Asia における Welfare regime and international mobility of care workers: social construction of care and vulnerability など、実り多き最終年となった。また、眞壁仁による論考「日本における「民」の政治思想史」をメンバー全体で共有できたのも、成果であった。代表者自身が進めた共訳書『軽いシティズンシップ—市民、外国人、リベラリズムのゆくえ』(クリスチャン・ヨプケ著)とそれに伴う解説などの業績(2013—4年)を通じて、「民」の扱い方を欧米諸国におけるシティズンシップの在り方に引き付け、リベラリズムとの関連で問題提起できたことは、意義深かった。2013年にはヨプケを日本政治学会に招聘し、14年にも同学会関連部会において、その議論が前提となってどう考えるのかという問題設定になっていたのを見て、一定の意味を得てきた。

ただ、グローバル化時代の「民」の在り方について、日本の土壌に引き付け、5人の分担者で統一的な見解を提示するという当初の理想の高みまではたどり着けなかった。この点を将来における課題としたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計26件)

1. 安里和晃「経済連携協定を通じた海外人材の受け入れの可能性」、日本政策金融公庫論集30号、P.35-62、2016、査読無
2. 安里和晃「移民レジームが提起する問題: アジア諸国における家事労働者と結婚移民」、季刊社会保障研究51巻3・4号、P.270-286、2016、査読有、<http://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/data/pdf/20143603.pdf>
3. 安里和晃「福祉レジームと海外人材の位置づけ」、現代思想44巻3号、P.170-181、2016、査読無
4. ENDO, Ken, “The difficulty of realizing pan-European fiscal democracy,” *MyVision*, No.16, 2015、査読無、http://www.nira.or.jp/pdf/e_vision16.pdf
5. 遠藤乾「危機を生きる—ギリシャ国民投票後のEU」、學士會会報914号、P.26-33、2015、査読無
6. 遠藤乾「財政統合なき共同体の困難《ギリシャ発ユーロ危機!》」、中央公論129巻9号、P.208-211、2015、査読無
7. 明石純一「日本の外国人政策の戦略的構想(その3)「開国」対「鎖国」の二項対立を越えて」、日本行政511号、P.3-5、2015、査読無
8. 明石純一「日本の外国人政策の戦略的構想(その2)「開国」対「鎖国」の二項対立を越えて」、日本行政510号、P.13-15、

- 2015、査読無
9. 明石純一「日本の外国人政策の戦略的構想(その1)「開国」対「鎖国」の二項対立を越えて」、日本行政 509号、P.5-7、2015、査読無
 10. 辻康夫「イギリスにおける社会統合政策と多文化主義——安達智史『リベラル・ナショナリズムと多文化主義』をめぐって——」、北大法学論集 66 卷 2 号、P.213-224、2015、査読無、<http://hdl.handle.net/2115/59606>
 11. 眞壁仁「神の宿るところ: 徳川後期の積奠における迎送神と神像」、學士會会報 915 号、P.53-62、2015、査読無
 12. 遠藤乾「統合と分断の同時深化こそ欧州の「新常态」」、中央公論 129 卷 4 号、P.144-151、2014、査読無
 13. 明石純一「国際人口移動に対する政策的管理の実効性と限界」、人口問題研究 70 卷 3 号、P.275-291、2014、査読無
 14. AKASHI, Junichi, “New Aspects of Japan’s Immigration Policies: Is Population Decline Opening the Doors?” *Contemporary Japan*, Vol.64, No.2, pp.175-196, 2014、査読有
 15. 遠藤乾「グローバル化 2・0—TPP 賛否両極論を排す」、中央公論 128 卷 3 号、P.72-82、2013、査読無
 16. 柄谷利恵子「国籍・入国管理政策と対外政策の交差: 英国人性をめぐる議論から考える」、国際政治 173 号、P.141-154、2013、査読無
 17. 明石純一「国際労働力移動をめぐるガバナンスの一考察—インド・ケララ州の事例を通して」、移民政策研究 5 号、P.51-64、2013、査読無
 18. 辻康夫「多文化主義理論の諸類型の検討: 複合的アプローチにむけて」、法政理論 45 卷 3 号、P.35-59、2013、査読無
 19. 辻康夫・宮井健志「〔翻訳〕ルーカス・スウェイン「マイノリティとシティズンシップ」」、北大法学論集 63 卷 5 号、P.168-182、2013、査読無、<http://hdl.handle.net/2115/51815>
 20. 眞壁仁「エクレスシアなき「紙上の教会」と〈精神〉のゆくえ: 書評 赤江達也著『「紙上の教会」と日本近代』」、福音と世界 68 卷 11 号、P.40-43、2013、査読無
 21. 眞壁仁「大学出版の源流: 「官板」から「福澤氏蔵版」まで」、大学出版 94 号、P.2-6、2013、査読無
 22. 柄谷利恵子「英国におけるポイント・システム: 仕分け・配置・処遇をめぐる政治」、移民政策研究 4 号、P.28-40、2012、査読有
 23. 明石純一「日本の「移民政策」の変遷における 2009 年入管法改正」、法律時報 84 卷 12 号、P.10-15、2012、査読無

〔学会発表〕(計 68 件)

1. ASATO, Wako, “Welfare regime and international mobility of care workers: social construction of care and vulnerability,” 6th ADBI-OECD-ILO Roundtable on Labour Migration in Asia: Safeguarding Labor Migrants from Home to Workplace, (Asian Development Bank Institute, Tokyo, Japan), 2016.2.5
2. 辻康夫「「多文化主義」をいかに理解すべきか」、移民政策学会 2015 年度冬季大会(中京大学名古屋キャンパス・名古屋市)、2015 年 12 月 12 日、http://iminseisaku.org/top/conference/doc/151212_tsuji.pdf
3. TSUJI, Yasuo, “Formulating a theory of multiculturalism in Japanese context,” Korean Political Science Association, (韓国外交院・ソウル特別市・韓国)、2015.12.5
4. 遠藤乾「TPP、グローバル・スタンダード、北海道農業—グローバル化との付き合い方」、北海道菱肥会(ニューオータニイン札幌・札幌市)、2015 年 10 月 5 日
5. ASATO, Wako, “Socio-economic status of immigrants and economic policy,” International Conference on “Inequality in A Rising Asia: Environment, History and Society,” (India International Center, Conference Hall No.2, New Delhi, India), 2015.10.4
6. 遠藤乾「欧州の亀裂—統合の進展と相互不信」、日本経済研究センターセミナー(日本経済研究センター・東京都千代田区)、2015 年 9 月 4 日
7. 眞壁仁「明清交替後の江戸儒学界: 校勘・輯佚・考拠学とその精神」、ワークショップ: 徳川日本における東アジアの学術受容(北海道大学・札幌市)、2015 年 8 月 10 日
8. ENDO, Ken, “The Principle to ‘Harmonise-Up’ in the Era of Competing FTAs—Towards a new dynamism of Japan-Korean relations Japan-Korean Open Intellectual Dialogue,” Open Intellectual Dialogue between Korea and Japan (Marriott Executive Apartment, Seoul, Korea), 2015.4.25
9. 遠藤乾「EU の現状と今後—欧州はどこに向かうのか—」、日本アカデミア勉強会(日本生産性本部・東京都渋谷区)、2015 年 3 月 23 日
10. 遠藤乾「日韓の和解のために—欧州と東アジアの比較の中から—」、現代日本政治学会(サムソン経済研究院・ソウル特別市・韓国)、2015 年 3 月 14 日
11. 遠藤乾「コメント」、北海道ダイアログ—東アジア市民社会対話(北海道大学・札幌市)、2015 年 2 月 28 日~3 月 1 日
12. 眞壁仁「神の憑依するところ: 昌平齋

- 奠改革と徳川日本の儒礼受容」、文部科学省・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタル・アーカイブの構築と活用」プロジェクト第9回研究会（東京女子大学・東京都杉並区）、2015年2月13日
13. 明石純一「外国人政策における地域創生と大学改革の課題」、移民政策学会2014年度冬季大会（大阪大学豊中キャンパス・豊中市）、2014年12月13日
 14. 遠藤乾「TPPのポリテイクスグローバル化は管理できるか」、サントリー講演会（サントリー本社・東京都港区）、2014年11月17日
 15. 遠藤乾「国際関係の平和的変革は可能か—吉野作造に学ぶ—」、吉野作造賞受賞記念講演（吉野作造記念館・大崎市）、2014年11月1日
 16. 遠藤乾「市民、統合、主権—EUシティズンシップの問いかけ」、日仏文化講座：ヨーロッパ市民とは何か？—ヨーロッパ統合の現状から考える（日仏会館・東京都渋谷区）、2014年10月28日
 17. 眞壁仁「日本における儒礼の受容と展開—昌平黻の積奠改革を中心に—」、基盤研究（A）「人類の思想的営みとしての宗教遺産の形成に関する総合的研究」（研究代表者：上島享）研究成果報告シンポジウム“Cultural Heritage in Religion: Its Meaning and Preservation”（ハーヴァード大学ライシャワー日本研究所・ケンブリッジ市・アメリカ合衆国）、2014年10月10日
 18. 辻康夫「多文化主義の諸理論とマイノリティ政策」、第30回日本解放社会学会大会（関西学院大学・西宮市）、2014年9月6日
 19. 遠藤乾「国内連帯とグローバル化」、サントリー文化財団 震災後の日本に関する研究会公開フォーラム—「災後」の文明（国際文化会館・東京都港区）、2014年5月26日
 20. ENDO, Ken, “The Principle of ‘Harmonise-Up’ in the Era of Competing FTAs ---Towards a new dynamism of Japan-Korean relations,” 16th Seoul National University-Hokkaido University Joint Symposium (Seoul National University, Seoul, Korea), 2013.12.13
 21. 明石純一「国際人口移動に対する政策的管理の限界と可能性」、国立社会保障・人口問題研究所「第18回厚生政策セミナー」（女性就業支援センター・東京都港区）、2013年10月31日
 22. 遠藤乾「これからの日本の政治はどうあるべきか—グローバル化と安心・安全」、北海道保険医会（札幌東急イン・札幌市）、2013年10月5日
 23. AKASHI, Junichi, “Japanese Immigration Policy in Demographic Transition,” European Association for Japanese Studies “1st EAJS Japan Conference” (Kyoto University, Kyoto, Japan), 2013.9.28
 24. 辻康夫「文化主義理論の複合的アプローチにむけて」、日本政治学会2013年度研究大会・分科会 B6「多様化する多文化主義」（北海学園大学・札幌市）、2013年9月15日
 25. 遠藤乾「TPPと地域社会—両立は可能か」、管理職まちづくり特別講座（市町村アカデミー・千葉市）、2013年7月17日
 26. 安里和晃「国際的な人の移動と家族」、京都市世界人権問題研究センター主催シンポジウム「国際化時代の家族のあり方」（ウイングス京都・京都市）、2013年3月8日
 27. ASATO, Wako, “Skills deficit identification and international skills harmonization,” ADBI-OECD Roundtable on Labor Migration in Asia (Pullman Hotel, Bangkok, Thailand), 2013.1.24-25
 28. 明石純一「1990年以降の入管法」、立命館大学国際地域研究所・人身取引研究会、科学研究費基盤研究(B)「東アジアにおける人身取引と法制度・運用実態の総合的研究」主催シンポジウム「人の国際移動と法—入管法制をめぐる」（立命館大学・京都市）、2012年12月7日
 29. 明石純一「日本における移民研究の現在と展望」、筑波大学・キエフ国立大学主催国際学術会議「日本研究フォーラム」（キエフ国立大学・キエフ・ウクライナ）、2012年11月27日
 30. ASATO, Wako, “Politicization of healthcare migration and harmonization of qualification,” 第7回北九州アジア太平洋アクティブ・エイジング会議2012（北九州国際会議場・北九州市）、2012年11月11日
 31. ASATO, Wako, “Synthesizing International Migration of Care,” Japan Sociological Society (Sapporo Gakuin University, Sapporo, Japan), 2012.11.3
 32. 遠藤乾「グローバル化2.0—震災後の日本を開き方—」、サントリー文化財団「震災後の日本を考える」研究会（東京會館・東京都千代田区）、2012年10月24日
 33. 安里和晃「人口減少社会におけるケアの担い手—アジアの事例から—」、第69回全国老人福祉施設大会広島大会（リーガロイヤルホテル広島・広島市）、2012年10月24日
 34. TSUJI, Yasuo, “Multiculturalism and Indigenous People in Japan,” Multicultural Coexistence and East Asian Community (Hokkaido University, Sapporo, Japan), 2012.10.15
 35. ASATO, Wako, “Reconstruction of Filipino

- Communities in Disaster Area of Japan,” GT-Toyota Memorial Hall Opening Ceremony (University of the Philippines, Manila, Philippines), 2012.9.13
36. TSUJI, Yasuo, “Depalochializing political theory in Japanese context: A comment on James Tully’s paper,” Deparochializing Political Theory (University of Victoria, Victoria, Canada), 2012.8.2
 37. 明石純一「入管法改正の時代的文脈と今日的課題」改正入管法シンポジウム実行委員会・多言語行政書士協会ほか共催「改正入管法シンポジウム」(伊藤塾東京校・東京都渋谷区)、2012年7月28日
 38. 安里和晃「日本の介護事情と外国人受入れの現状看護」、介護分野における日本語教育集中研修講座(大阪第4ビル・大阪市)、2012年7月14日
 39. 安里和晃「少子高齢社会における人の国際移動」、関西生産性本部主催講演(新阪急ホテル・大阪市)、2012年7月14日
 40. ENDO, Ken, “The Prospects of East Asian Regionalism: Through the looking glass of a oft-distorted image of Europe,” Workshop on A New Asia? Politics, Society and Culture in the 21st Century (University of East Anglia, London, United Kingdom), 2012.6.28-29
 41. 明石純一「移民政策の制度設計——比較考察と危機後の展望」、移民政策学会2012年度年次大会(明星大学・東京都日野市)、2012年5月20日
- 〔図書〕(計27件)
1. 明石純一「グローバル化と社会」、平野かよ子・渡部一郎【編】『ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障①健康と社会・生活』(メディカ出版)、P.129-143、2016
 2. 遠藤乾【編】『シリーズ日本の安全保障第8巻 グローバル・コモンズ』(岩波書店)、P.1-304、2015
 3. 柄谷利恵子「子どもを守る法的枠組み」、初瀬龍平・松田哲・戸田真紀子【編】『国際関係のなかの子どもたち』(晃洋書房)、P.218-232、2015
 4. 柄谷利恵子「国際人口移動時代の安全保障」、遠藤乾【編】『シリーズ日本の安全保障第8巻 グローバル・コモンズ』(岩波書店)、P.129-154、2015
 5. 明石純一・鐘春柳「シンガポールの人材獲得政策—都市国家の成長戦略とジレンマ」、五十嵐泰正・明石純一【編】『「グローバル人材」をめぐる政策と現実』(明石書店)、P.40-54、2015
 6. 明石純一「国境を越える人材：その誘致をめぐる葛藤」、五十嵐泰正・明石純一【編】『「グローバル人材」をめぐる政策と現実』(明石書店)、P.92-104、2015
 7. 遠藤誠治・遠藤乾「なぜいま日本の安全保障なのか」、遠藤誠治・遠藤乾【責任編集】『シリーズ日本の安全保障1 安全保障とは何か』(岩波書店)、P.1-32、2014
 8. 遠藤乾「安全保障論の転回」、遠藤誠治・遠藤乾【責任編集】『シリーズ日本の安全保障1 安全保障とは何か』(岩波書店)、P.33-66、2014
 9. 遠藤乾『ヨーロッパ統合史〔増補版〕』(名古屋大学出版会)、P.1-402、2014
 10. 遠藤乾「国内連帯とグローバル化」、サントリー文化財団「震災後の日本に関する研究会」【編】御厨貴・飯尾潤【責任編集】『別冊アステイオン・「災後」の文明』(株式会社阪急コミュニケーションズ)、P.305-327、2014
 11. 柄谷利恵子「「移民」と「難民」の境界の歴史的起源—人の移動に関する国際レジームの誕生」、墓田桂・杉木明子・池田丈佑・小澤藍【編著】『難民・強制移動研究のフロンティア』(現代人文社)、P.60-74、2014
 12. 明石純一「日本の入管法制の歴史的展開と現在」、宮島喬・藤巻秀樹・石原進・鈴木江理子【編集協力】『なぜ今、移民問題か 別冊「環」20』(藤原書店)、P.292-297、2014
 13. 辻康夫「ジョン・ロック」、杉田敦・川崎修【編著】『西洋政治思想資料集』(法政大学出版会)、P.94-101、2014
 14. 辻康夫「ロック——宗教的自由と政治的自由」、小野紀明・川崎修【編集代表】川出良枝・犬塚元・宇野重規・杉田敦・齋藤純一【編集委員】『岩波講座 政治哲学第1巻 主権と自由』(岩波書店)、P.193-215、2014
 15. クリスチャン・ヨプケ【著】遠藤乾・佐藤崇子・井口保宏・宮井健志【訳】『軽いシティズンシップ—市民、外国人、リベラリズムのゆくえ』(岩波書店)、P.1-310、2013
 16. 遠藤乾『統合の終焉—EUの実像と論理』(岩波書店)、P.1-508、2013
 17. 遠藤乾「[コメント1]文化大革命の「二重性」について」、徐友漁・鈴木賢・遠藤乾・川島真・石井知章『文化大革命の遺制と闘う 徐友漁と中国のリベラリズム』(社会評論社)、P.56-61、2013
 18. 柄谷利恵子「第7章 人の移動—国際レジームの変遷をめぐる動因と戦略」、大矢根聡【編】『コンストラクティヴィズムの国際関係論』(有斐閣)、P.173-195、2013
 19. 安里和晃「第7章 家族ケアの担い手として組み込まれる外国人家事労働者—香港・台湾・シンガポールを事例として」、落合恵美子【編】『親密圏と公共圏の再編成：アジア近代からの問い』(京都大学学術出版会)、P.201-241、2013

20. AKASHI, Junichi, “Japan: Immigration Control Policy,” NESS, Immanuel & BELLWOOD, Peter (ed.), *The Encyclopedia of Global Human Migration* (Wiley-Blackwell), pp.1919-2012, 2013
21. 明石純一「現代日本における入国管理政策の課題と展望」、吉原和男【編著】『現代における人の移動 アジアの中の日本』(慶應義塾大学出版会)、P.63-83、2013
22. 辻康夫「多文化主義と宗教的マイノリティ:ムスリムの統合の問題をめぐって」、日本政治学会【編】『宗教と政治 年報政治学 2013- I 』(木鐸社)、P.168-188、2013
23. 柄谷利恵子「国際移動する人々」、初瀬龍平【編著】『国際関係論入門：思考の作法』(法律文化社)、P.240-253、2012
24. 安里和晃「人の国際移動と受け入れ枠組みの形成に関する研究」、武川正吾・宮本太郎【編著】『グローバリゼーションと福祉国家』(明石書店)、P.71-107、2012
25. 安里和晃「シンガポール」／「台湾」／「韓国」、厚生労働省【編】『諸外国における外国人労働者の就労実態に関する調査報告書』(WIP Japan 株式会社)、P.201-364、2012
26. KARATANI, Rieko, “Unravelling the Security and Insecurity of Female Overseas Domestic Workers: 'Global Householding' and 'Global De-Householding' Examined (Afrasian Research Centre, Ryukoku University Phase 2, Working Paper Series Studies on Multicultural Societies), pp.1-22, 2012

[その他]

ホームページ等

遠藤乾研究室 <http://endoken.blog.fc2.com/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

遠藤 乾 (ENDO, Ken)

北海道大学・大学院公共政策学連携研究部・教授

研究者番号：00281775

(2)研究分担者

柄谷 利恵子 (KARATANI, Rieko)

関西大学・政策創造学部・教授

研究者番号：70325546

安里 和晃 (ASATO, Wako)

京都大学・大学院文学研究科・特定准教授

研究者番号：00465957

明石 純一 (AKASHI, Junichi)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：30400617

辻 康夫 (TSUJI, Yasuo)

北海道大学・大学院公共政策学連携研究部・教授

研究者番号：20197685

眞壁 仁 (MAKABE, Jin)

北海道大学・大学院法学研究科・教授

研究者番号：30311898

(3)連携研究者

山崎 幹根 (YAMAZAKI, Mikine)

北海道大学・大学院法学研究科・教授

研究者番号：30295373